

東部・夜）令和コミュニティトーク **要約**

日 時：令和6年7月4日（木） 18：30～20：30

場 所：東郷公民館 ホール

出席者

市：田中市長、永田副市長、未来政策部長、未来政策部次長、秘書広報課長、
コミュニティ課長、入来支所長、祁答院支所長

地 域：東部区域（入来・祁答院地域）の10地区コミュニティ協議会長をはじめ
とする地区住民52人

（合計69人の参加）

1 地区振興計画について

【副田地区】

- ・重点3項目は、「ふるさと副田に親しむ活動とふれあい活動」、「健全な青少年を育成する活動」、「防災と防犯対策の強化活動」。
- ・「ふるさと副田に親しむ活動とふれあい活動」では、続けて3年目を迎える日曜日のラジオ体操会、10月にお月見コンサートの実施を予定している。
- ・健全な青少年育成に関する活動では、夏休みの7月22日から毎朝6時半から親子と年寄りを集めてラジオ体操を実施。
- ・防犯、防災活動については挨拶運動、防犯パトロールで声掛けを実施。
- ・研修会を充実していきたいと考えている。

【清色地区】

- ・重点3項目の1つ目は「入来地区5地区コミの横断的な連携を通して、5地区コミでそれぞれの特徴ある事業の実施や交通の不便な箇所や危険箇所などを必要に応じて行政へ改善要望していく」である。入来の5地区がそれぞれ季節に応じてイベントを計画しているが、同じような内容で行っているので、それを見直し、この地区にはこのイベントという形で、残していこうと話を進めている。
- ・2番目は、増えてきた空き家などに対して、自治会の部分を連携し、情報をもらい、対策及び活用について考えていく。自治会の現状というものを自分たちで把握しないといけない。これを自治会と一緒にやることで、買い物弱者の手助けをするネットワークづくりをしていかなければならない。
- ・空き家問題が実際に起こったときに、皆さんが一番の関心があるのは税金だと思う。残したとき、開発した時の税金や使えるような部屋の再活用などの細かいことまでやっていきたい。建設住宅課の方々も一緒に来てもらい、説明をしていただく予定である。
- ・3番目は、重点項目の2番目を踏まえ、買い物への支援を考え、お互い様という心と呼び戻す。

【朝陽地区】

- ・重点3項目の1番目は、「健康寿命を延ばすためのづくり」について。朝陽地区は丸ごと支えあい事業に取り組んでいた頃のように、一人暮らしの高齢者などに気を配り、マップを作成し、認定員やすこやかアドバイザーに協力してもらいながら声掛けを実施してきた。

- ・認知症の勉強会、買い物支援対策の買い物クラブ、認知症の方を想定した模擬訓練を3年実施してる。また今年6月より、地域の方に健康で長生きしてもらいたいということで、毎月2回から4回、1年を通してはんとけん体操を始めた。
- ・2番目について、「助け合いの精神を育み、心豊かで安心な地域づくり」について、自治会内のことは自治会でパトロールをし、軽微なことは自分たちで処理する。処理できないケースはコミセンに連絡役をしてもらい、まとめて支所に連絡することを取り決めた。
- ・朝陽お助け隊を発足することを決めた。これはいろいろな分野で特技を持った方を発掘、登録し、いろいろな相談事において紹介し協力する取り組み。地域の人材活用にも繋がると思っている。
- ・3番目に、「農林漁業の生産性向上により、地域活性化」については、朝陽ワイナリーのブドウとキンカンワインの製造販売の本格稼動に伴い、ブドウの原料不足により休耕田など、ブドウやキンカンへの転用事業を推進する。また、キンカンについては、完熟していて、軽微な傷で、出荷できないものをワイン工場で利用してもらうため、近所の農家さんとの協定計画を進めている。

【大馬越地区】

- ・第5期地区人口計画の重点3項目の説明について、1つ目は、「高齢者向けの買い物支援と安否確認事業」であり、重点的に取り組みたい。
- ・現在製造している特産品も販売品目を増やしていきたい。雨天時には販売スペースがない自治会もあり、軽トラックの中で販売ができるように改造を行っている。この事業については、コミュニティビジネス補助事業を導入して改善していきたい。今年度からは外国人向けの無糖シソジュースを現在製造中である。
- ・2つ目は、「特産品製造従事者の高齢化に伴う後継者育成事業」について、現状で後継者不足であり、今後事業が継続できるか不安な状態である。このため、旧朝陽小学校でのワインの製造の従業員と業務連携を行い、若者の参加を経て事業の継続と後継者育成を目指したい。現在販売については、6月17日から従業員2名を予定している。
- ・3つ目は、「ちいきまるごとささえ愛事業の推進」ということで、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、医療や介護、介護予防だけではなく、日常的な生活支援も必要である。この事業は、医療や介護サービスでは解決しづらい暮らしのちょっとした困り事や話し相手などを、住民をはじめ、ボランティアやNPO民間企業などの多様な団体が協力し合い、支え合う地域づくりを目指している。事業の推進は社会福祉協議会で実施し、コミュニティ協議会としてはサポートしていきたい。
- ・最後に地域おこし協力隊の補充に苦慮しているところだが、ますます高齢化が進む中で住んでよかったと思える田舎のよさをPRしたい。そこで今年度から結婚式も開催する方向で企画中である。

【八重地区】

- ・第5期振興計画では、「花や緑があふれ自然と共生するまちづくり」を目指す。
- ・1つ目に「地域の伝統行事を若い世代に伝承しながら継続をする」。高齢化が進み、若手が少なく難しいが、今いる各班長を中心に話し合いながら進めていく。
- ・2つ目に「地区全体で清掃作業を行い、地区の環境、豊かな自然を守る」。皆で

親睦を図り、健康に気をつけながらできる人ができることを、無理せずに参加する。また、美化活動ではコミュニティ周辺、自治会等をきれいにし、水芙蓉の花を地区内のあちこちに植樹して、心豊かな地域づくりを目指す。

- ・3つ目に「高齢者等が安心して暮らせるよう安心安全な街づくりに取り組む」である。そのためには、地域の福祉ネットワークの推進活動、触れ合い活動、健康に関する活動として、八重見守り隊を結成し、定期的に独居世帯や高齢者世帯を回り、声かけや情報を共有し、孤立しない環境づくりに取り組む。また買い物バス等を運行し、生活支援を行う。
- ・触れ合い活動では、高齢者の引きこもりがちな生活を防ぐ健康に関する活動と組み合わせ、スポーツや健康講話、はんとけん体操等を取り入れ、健康で生きがいのある暮らしができるようにする。
- ・高齢化が進み、自治会の存続も難しくなっているが、コミュニティとしては若者から年寄りまで、安心安全で楽しい地域を目指すため、今いる人ができることをして協力していく。

【黒木地区】

- ・今年3月末で黒木小学校の閉校により、跡地の活用する業者があればと思う。これまで小学校との合同運動会をしてきたが、運動会は中止することにした。小学校に卓球台が残っているので、卓球大会や健康スポーツ大会ができればと検討している。
- ・地区の基幹産業は農業で、ほとんどが兼業農家、和牛生産と水稻である。将来を考えたとき、高齢化による規模縮小、後継者不足で耕作放棄地が増えることを心配している。黒木の農業のため、将来に向けた活動を計画している。
- ・癒しの場として黒木温泉があり、管理運営しているが、ここ3年で燃料高騰や電気代の値上げ、また入浴者の減少で運営が厳しくなっているが、1年でも長く運営を頑張る。
- ・地区内の矢立農村公園せせらぎの里は、ニジマス釣りができる施設であり、市から指定管理者として管理している。今後も引き続き管理運用することで、地域の活性化になればと思う。

【上手地区】

- ・第5期振興計画について、「自ら起こして地域づくり」をまちづくりの目標として掲げて27の事業活動に取り組んでいる。小学校の児童と高齢者クラブに協力を得て、環境美化を目的に、菜の花の植栽をずっと続けている。
- ・上手の夏祭りを施設と合同で行っていたが、昨年度は地域の有志が集まり、企画して夏祭りが開催できた。今年も8月14日に、PTA一同が協力して夏祭りを計画している。
- ・上手地区の歩こう大会は、自治会の公民館で開催しているサロンの参加者にたくさん来ていただいて、参加者も増えてきている。
- ・重点項目の3項目は「環境美化の推進」、「文化財・郷土芸能の保存」、「健康づくりの推進」である。この中には参加者が女性だけの会もあり、続けていきたい。地域の女性を含めて皆さんが関係して、場所を提供し、話し合いができたという思いがある。
- ・今年度は初めて上手地区の運動会を9月29日に実施することで、プログラムなど

を検討中。高齢者、PTA 関係の多くの方々も一緒に事業を進めていきたい。

【大村地区】

- ・ 1 番目の「高齢者の見守り強化」は、民生委員と連携し、高齢者への声かけを強化していきたい。
- ・ 2 番目の「河川敷景観保全のため除草作業継続」は、久富木川の旭橋右岸に約 500m の活動広場を整理していただいた。その際に、左岸の堆積物を取り除いてもらい、そのあとの除草作業を地区民で行うために、乗用草刈り機を地区民独自で購入した。年間 3 回程度除草作業を行っていききたい。
- ・ 3 項目の「河川敷の利活用」については、教育機関との連携でグランドゴルフのできる 100m 程度のコースを作っている。また、約 500m のコースもある。現在、小学校などの持久走大会や消防団の訓練にも利用している。今年度もこのようなことを踏まえて活動していく。

【轟地区】

- ・ 地区の現状は、160 世帯 2 自治会である。2 つの自治会が、旧ゴールド集落になっている。この 2 つの自治会長が、地区コミュニティ協議会の副会長であるので、自治会と地区コミュニティ協議会の連携はよく取れていると思う。
- ・ 轟地区振興計画はキャッチコピーに、「地区民の絆がりが、明日へと繋がるまちづくり」を掲げている。重点 3 項目は、「農業振興活動への取り組み・注力」、「文化財及び郷土芸能の保存・継承活動」、「健康づくり及びふれあい活動の継続」である。
- ・ 「農業振興活動への取り組み・注力」の内容は、農業振興活動への取り組みで少子高齢化に伴い、後継者不足が危惧される地域農業の維持や活性化を目的とし、農業振興活動に取り組む集落営農を目的とした、「明日の農業を考える会」の発足、地域農業の育成を実施し、持続可能な地域農業の確立を目指す。
- ・ 2 番目の「文化財及び郷土芸能の保存・継承活動」では、地区の文化財の維持・保存、郷土芸能の種子島踊りの保存・伝承を目的とする。また、鬼火焚き事業や郷土誌編纂事業を継続して行い、地区の文化の継承を図ることを目標とする。
- ・ 3 番目の「健康づくり及びふれあい活動の継続」は、各種スポーツ事業の開催や同好会開催などを通じて、地区民の健康づくり、維持に寄与する。また、轟ふるさと夏祭りなどのふれあいイベントを持続し、地区民の連帯感、融和を図ることを目標とする。

【蘭牟田地区】

- ・ 第 5 期地区振興計画の重点 3 項目について、小学校が閉校して初めての振興計画ということで、まず組織の再編を行った。PTA 組織も祁答院小校区の組織となり、文化教養部を体育健康部と地域づくり部に振り分け、文化教養部をなくし、3 つの部会に再編した。
- ・ 重点項目 1 つ目の「地区民の自助による安心・安全で住みよいまちづくり」では、自分たちのまちは自分たちで考え、つくり育てることを基本に心触れ合う地域コミュニティの形成に努めるとともに、総務部を中心に、子供、高齢者の見守り活動を強化し、防犯及び交通安全への意識を高めることにより、地区民が安心して暮らせるまちづくりを目指す。

- ・2番目の「人・産業・自然を活かした活力あるまちづくり」は、地域づくり部会を中心に、まちづくりの原点は地区住民一人一人が主役であるとの観点に立ち、自主的な活動を支援する機会の創出と体制づくりを推進する。住民サービスの醸成を図り、生活の基盤となる地区の活性化と若者定住化に努めるとし、藺牟田池を活用したイベントの開催をはじめ、世代間交流を図ることにより、区民全体の活性化を図ってきている。
- ・3項目の「若者世代を中心とした担い手育成による持続可能なまちづくり体制の構築」では、各種スポーツの実施や、健康で思いやりのある地域福祉社会の形成に努めるとともに、安全で、快適な生活環境の保全と改善、向上に努める。体育健康部会を中心に、小学校閉校に伴う地区独自のスポーツ関連行事の見直しと再構築を行うことによって、区民の健康増進と、世代間交流を進める。

市長コメント

- ・令和元年から5年までの第4期はコロナ禍真っ只中であり、コミュニティの行事も自粛或いは中止ということで、計画通りにならなかったと考えている。また、コロナ禍が市民のイベントに対する考え方に少し影響を与えていると思う。
- ・地区振興計画については、アフターコロナの5年間の活動方針なので、地区民同士、市役所、支所ともよく話し合い、持続できることを取り組んでいく。
- ・親子のラジオ体操の話があったが、48地区の地区振興計画を聞くと、子ども、親世代、祖父母世代が一堂に集まるようなイベントに特化したやり方が良いと思う。全市的には住民総参加、3世代参加型というのが、これからの生き方だと思う。
- ・改めて10地区のコミュニティ協議会会長に、自分の住んでいる地区の地域振興計画を説明していただいたが、他の地区の計画を知る機会が少ない中でこのように説明していただく時間というのは非常に貴重だと思う。入来町内においてはすでにそういった取り組みをされているということなので、これからも横の連携、或いはイベントの連携が大事だと思う。
- ・基礎的な声かけ、見守り、環境美化、防災、イベント・祭りがあるが、特にアフターコロナにおいてはイベントも復活しているので、協力して進めていただきたい。
- ・自治会合併のことも出てくるが、人口減少の中であれば、共助というのは必要になる。話し合い、助け合っていかなければならない。自治会・コミュニティ協議会というのはなおさら必要になってくる組織であると認識している。
- ・入来町の5地区は84人から1,757人の人口で、祁答院町は256人から840人である。歴史的にも現時的にも人口差あるので、このコミュニティの中で、これまで通り十分話し合って地区振興を実行していただきたい。なお、薩摩川内市48地区コミュニティがあるが、一番人口の少ない箇所は15人になってきた。一番多いのは1万4000人の平佐西である。合併当初から、市町村の人口は偏在していたが、その構造は今も変わっていないので、これから特に自治会、地区組合で十分に話し合って、市役所、行政、或いは議員の方とも密に話を続けていくことが、これから自治組織の維持、活性化に繋がると思う。

2 市政の動向について

(1) 主な動き

- ・11月12日は、久富木川の河川広場の竣工式を行った。
- ・12月18日には、国体記念プレートの除幕式を入来で行った。
- ・12月24日には、旧増田家の来訪者が10万人を達成した。
- ・2月10日は、令和5年度の原子力防災訓練を実施した。
- ・2月11日は、生涯学習フェスティバルを実施した。
- ・3月に祁答院町において、黒木小、藺牟田小、上手小、大裏小の閉校式があった。
- ・3月21日に、川内大綱引きが国の重要無形文化財に指定されている。
- ・新年度4月1日に、市誕生20周年の事業推進本部を設置した。同日、こども家庭センターを市役所内に組織として設置した。
- ・4月8日は、祁答院小学校の開校式があった。
- ・4月15日に、バレーボールの女子の日本代表チームが4月に合宿し、日本女子はオリンピック出場を決め、銀メダルを獲得した。男子もオリンピックに出場し、ネーションズリーグ銀メダルを獲得され非常に素晴らしいことだと思う。
- ・5月5日は、市誕生20周年記念植樹を寺山で行った。年明けに樋脇でも同様に、記念植樹をすることとしている。入来と祁答院の少年団にいろいろとお世話になった。

(2) 令和6年度当初予算のポイント

- ・令和6年度の当初予算は一般会計において575億6千万円で、過去20年で最大である。特別会計などと合わせると市全体の予算は、891億円で非常に大きな予算となっている。当初予算の中でも特に、こども・子育て支援、コミュニティ・自治会活性化、産業人材確保・移住定住、人手不足解消の政策、市誕生20周年記念事業の6項目に力点を置いて取り組んでいる。
- ・こども・子育てについては、どの候補者も少子化対策、子育て支援は喫緊の課題としている。社会福祉協議会と市議会に相談しながら、子育て応援券の拡充、産後ケアの拡充、共働き・共育て応援の新規事業に取り組んでいる。また、学校給食費の補助事業を新規で開始した。小中学生の学校給食費を全額補助する自治体があることは認識しているが、薩摩川内市の場合、全額補助すると年間5億円必要であるため、令和6年度からは、1億円を電源交付金を活用して補助することにした。また、子ども・子育てに関係して、子ども医療費の窓口負担の件で、来年度から所得に関係なく18歳以下の方の窓口負担もゼロにするように今年度中に市議会に相談したい。
- ・自治会の補助金、コミュニティ協議会の補助についても、20年ぶりに防犯灯の電気代などの拡充を行った。テレビ難視聴、テレビ組合に対する新規の補助も電気代など新規で補助を開始している。
- ・人手不足における産業人材確保・移住定住についてだが、薩摩川内市内の中学校高校を卒業した人が薩摩川内市内の企業に就職した時に10万円分のポイントを付与する事業を今年から始めた。また、奨学金返還支援を拡充し、大学、短大、専門学校の人々が薩摩川内市内の事業所に就職した場合は、最大300万円を補助する事業を拡充している。介護人材や漁業後継者を初めとし、概ね全産業に渡って産業人材確保の支援事業を拡充した。
- ・今年度は特に20周年記念事業についても実施していきたい。
- ・DX事業の推進として、スマホ教室を全地区で今年度実施予定である。
- ・地区サポーター制度の創設し、48地区コミュニティに市職員を1名ずつ配置した。さまざまな地区振興政策などについてもサポーター制度を活用いただきたい。

(3) コミュニティ活性化策

- ・自治会再編、合併協議の動きが多くなっている。市役所でも自治会の方が自主的に再編協議をする場合に補助制度も拡充し、市職員も会議に必要性があれば出席し、様々な情報提供、情報共有するのでご活用いただきたい。

(4) 空き家対策

- ・空き家関係の補助制度の一部を紹介している。空き家改修サポート事業の補助金として地域ごとに金額を設定している。空き家バンクの成約奨励金制度など詳細は個別に問い合わせいただきたい。
- ・今年、全市的に空き家の実態調査を行う。いろいろプライバシーなどあるが、皆様のご協力をいただきながら、調査することになるので、6年度中の空き家などの実態調査にはご協力、ご理解をお願いしたい。

(5) 川内港 唐浜地区 国際物流ターミナル整備事業

- ・唐浜埠頭を県と国が共同で整備している。特に県事業において大きなガントリークレーンを建てる予定で、令和7年度までに県には予定通りガントリークレーンを作って、貿易が開始できるように強く要望している。

※令和5年度令和コミュニティートークの意見の進捗状況について

- ・昨年10月26日に開催した、令和5年度令和コミュニティートークについて、いただいた意見の現在まで対応状況について2件報告させていただく。
- ・1つ目は空き家対策の件について。空き家対策については、令和6年1月1日付けで、産業人材確保・移住定住戦略室を設置した。そして、令和6年2月には、産業人材確保・移住定住戦略実行計画を策定し、空き家対策についての事項を明記し、取り組んでいる。移住定住者の受け入れによる空き家解消としては、空き家となっている住宅などを改修し、利活用を推進するための補助金の支給、空き家バンク制度による奨励金を支援している。また、緊急安全措置として、空き家の所有者が不明な場合は、必要最低限の範囲でロープやネットを使い、応急措置を講じることとしている。その他、一定条件のもと、危険で対応が必要と判断した家屋については解体撤去に対する補助制度もある。税制上の取り扱いについては、住宅などが立っている場合は、その土地は税負担の軽減をする特例措置があり、土地に関する固定資産税が軽減されている。空き家を取り壊し、更地の状態になるとこの特例措置の対象外となる。建物の取り壊した土地の利用形態により税額が変わるので、詳細は支所または税務課に問い合わせいただきたい。
- ・2つ目の過疎化の進行に対するご意見について。若い人が川内地域に家を構える、出身地域に家を建て、そこから通勤などできるような支援をつくってもらいたいという御意見だった。こちら先ほど申し上げた令和6年に策定した産業人材確保・移住定住戦略実行計画に基づき、事業の実施、補助制度のお知らせをしている。特に移住定住促進のためには、定住住宅取得補助金や定住住宅リフォーム補助金の枠を地域ごとに差をつけている。そして、より幅広い地域に移住定住してもらえよう制度の運用をしている。

3 事前提出議題

議題1 入来地域の人口減について【清色地区】

人口減少について、入来町民や薩摩川内市などを交えて、今後の入来を考える場

を持ちたいという御意見である。

本市の人口については、今後も減少が続き、令和17年には総人口が約8万人まで減少すると予測されている。全国的な人口減少が進む中、市では、現在、総合的な市政経営の指針となる新たなビジョンとして「第3次総合計画」の策定作業を進めており、この計画の中でもゾーニングビジョンを定めようとしている。これは、住み慣れた地域に住み続けるために、地域ごとに異なる現状と課題を踏まえて、特徴を捉えたきめ細かな施策を展開しようとするものであり、各エリアにおける広聴活動を踏まえて案を策定しているところである。同計画案では、人口減少、少子高齢化が進行する現状を踏まえて、産業人材確保・移住定住に係るプロジェクトを設定するほか、観光資源の情報発信・磨き上げの推進、市の公共交通ネットワーク形成などを掲げている。人口減少の減り幅を少しでも緩和し、議題にある入来地域をはじめ、市内各地がより魅力的なエリアとなるように今後を見据えた施策を展開してまいりたい。入来町民や市を交えて、今後の入来を考える場を持ちたいとのご意見であるが、まず、令和コミュニティトークは、薩摩川内市自治基本条例で定める「対話の場」として各エリアで実施しており、令和5年度から対話を重ねる機会を増やすために1年に1回、6エリアで開催し、市全体を回ることとしている。また、市長が主催者からの依頼により、会合に出席し、参加者との対話を重ねる場「市長Dトーク（出前トーク）」の制度がある。依頼があれば、日程調整の上、課題や意見を共有する場を持ちたい。

清色地区コミ

入来を囲む道路は高規格道路で、入来はへそ状態になっている。現在入来の人口が急激に減ってきている。アクセスが悪いのか、住環境が悪いのか、何が悪いのか、みんなで話がしたい。桜島が爆発した時に鹿児島市内から10万人避難しなければならない。それに対する対策はなされていない。仮に爆発したときに、どこに避難するのだろうか。間違いなく南の方、鹿屋方面には逃げない。そう考えたときに、入来・祁答院方面は逃げ道である。高規格道路に近い道路を作れないか。

市長

市長と語る場の要請があれば、話を聞きたい。入来地域に新しく高規格道路を作ることについては、お答えができない。議会でも質問があったが、川内宮之城道路の初期のルートで川内港から北に行き、湯田・西方インターから西回りと交差して北薩空港道に進むルートで議論している。

人口減少、少子化対策、子育て支援について、市は4月に子ども家庭センターを発足した。令和6年度は、男女の出会いから子どもの就職までの約30年のライフステージに、88億円の当初予算を設けている。厳しい少子化、人口減少の中、令和7年度に向けて、少子化対策と子育て支援の実行計画案を作れないかと議会で答弁している。組織も複数の部・課にまたがっているので、組織の見直しの検証も必要であること。財政・財源についても今年度から来年度にかけて議論していきたい。市としても、大きな流れを踏まえて、全市的な48の地区内に住んでもらえる仕組みを作れないか、6月議会から動いているところである。入来工業団地については2社が立地しており、面積の22%を貸付・分譲している。今新たに1社と立地の手続きを進めているので、話が煮詰まり次第、全市的に広報を行っていきたい。

議題2 未来戦略への取組みについて【朝陽地区】

薩摩川内市を魅力ある街とし、定住促進、企業誘致を進め、住みやすい街を作ってもらいたい。新鮮なアイデアを持つプロを民間から採用し、新たな課を設け薩摩川内市の未来を創り出してもらいたい。薩摩川内市において前例主義が目立つように思うので改める所は改め、全国に誇れる街にしてもらいたい。このような内容に対する市の対応を伺いたい。

総合的な市政経営の指針となる「第3次総合計画」を現在策定中であるが、市民の皆さまと協働した未来のまちのビジョンとなるように、丁寧に広聴活動を重ねてきたところである。計画策定に当たっては、他自治体や民間企業のビジョンなども参考にするとともに、庁内でも各部局の関係課で構成する部会を中心に計画内容の検討を行い、各部署のタテの連携、部局を横断して重点的に実施するヨコの連携を意識したビジョンとしている。

また、次代を担う中学生・高校生の視点からまちづくりに関する提案を募集するため、薩摩川内市みらいアドバイザーを設置し、持続可能で魅力的なまちづくりの推進に向け、若い方々の意見についても参考としているところである。未来戦略として、本市の10年後の「未来のまちの姿」として「人が繋がり 人が輝く 安らぎと賑わいのまち 薩摩川内」と設定しようとしている。これは、市民参加型の会議「まちづくりデザイン会議」で出された、市民が求めるまちづくりの意見を広聴し、分析した上で描いた姿である。この姿の実現に向けて、移住定住促進、企業誘致等、さまざまな施策を行い、他自治体の先行事例となるようなより魅力的なまちとなるよう取り組んでまいりたい。

また、本市では、市役所外部からの交流による活性化策として、現在、ANA総合研究所やトヨタ自動車㈱から職員を受け入れており、過去においては、三菱重工業㈱からの職員受入や㈱日刊スポーツ新聞西日本への職員派遣により、民間の視点を行政に生かすための取組を行っている。

今後においても、前例踏襲による事務の遂行が当たり前になっていないかなどをチェックし、柔軟な思考を発揮できるよう民間企業や国県などとの相互派遣による人材の育成に取り組むとともに、未来を創出するための組織づくりを行い、市民本位で常に進化を続けられる薩摩川内市になるように今後も努力を続けてまいりたい。

【意見：朝陽地区】

田中市長に変わられてから、対応が変わってきていることも事実である。今後ともよろしく願いたい。

市長

市役所の仕事の進め方で、いわゆる総合行政は大きく二つに分かれて二極化しているというふうに思う。今の大きな潮流はDX。SNS、AI、ロボットという超科学的なものと、企業誘致、川内港、西回り自動車道などのインフラ整備。それと同時に、自治組織、福祉、医療の部分が同時に進行している。ご提案があったように情報化や企業誘致については、そういった大胆な組み立てが必要であると感じている。市役所の方も、今、トヨタ自動車から企画政策課に社員が派遣されている。また、本年6月まで総務省から派遣されていたスマートデジタル対策監が、医療福祉連携ネットワークのかごネットやつんPayなど新しい仕組みを2年間で作った。こういった人材派遣によって、この薩摩川内市のスマートデジタル、昔で言う超高度情報化

の政策は進んできたと感じている。

ラムサール条約の藺牟田池や入来もんじょは、素晴らしい大きな財産だと思う。

人口減少、医療福祉となると基礎的な意見を誰から聞くかということが大切となる。入来町でも祁答院町でも要請があれば、さまざまな地域振興の話を知りたいと思う。先ほど少子化対策と子育て支援で実行計画、それから市役所の組織の検証、それから財政財源を申し上げたが、共働き・子育て世代と意見交換をするということとは議会で申し上げているので、これは計画的に実行していく。

議題3 旧大馬越小学校管理等について【大馬越地区】

1点目が、旧大馬越小学校体育館の使用について。体育館の床にワックス掛けをしていただけるのか伺いたい。2点目が、旧大馬越小学校敷地内の管理について。参加者の高齢化が進み枝木も高くなり、樹木の剪定作業に危険を伴うこともあるので、生垣を人の腰の高さまで半分程度に伐採することは可能か。3点目が、除草作業をした時に発生する雑草及び剪定後の枝等の処分について。処分地として学校下の集落排水場駐車場敷地か、旧大馬越分団車庫地跡地は使用できないか検討してほしい。4点目が、旧大馬越小学校の利活用について。課題があって貸付に至っていないのか。中庭にある校舎の解体について、工程を教えてくださいという質問だった。

体育館のワックス掛けについては、文部科学省からの、水拭き及びワックス掛けの禁止を盛り込んだ通知がされており、ワックス掛け等が、事故の原因につながる恐れがある。また、ワックス掛けは専門的技術等を有する業者が体育館専用の耐スリップ性ワックスを使用しなければならないため、受託業者への支払いが高額となる。今後、閉校跡地については企業等の利活用が予想されているため、市の厳しい財政状況の中では、屋内運動場へのワックス掛け等を実施するのは困難と考える。屋内体育館は現状のまま利用いただき、バレーボール等での利用に関しては、入来総合体育館等の施設利用を検討していただきたい。

次に旧大馬越小学校敷地内の管理についてである。正門前の生垣については、草払等業務委託の中で、腰高まで伐採していただいて構わない。伐採の際は作業される方の安全を十分に確保し行っていただきたい。伐採した枝等は、旧大馬越分団車庫跡地に仮置きをしていただければ、後日、市で処分する。

次に除草作業をした時に発生する除草後の雑草及び剪定後の枝等の処分については、除草後の雑草及び剪定後の枝等の処分については、先ほどもお答えしたとおり、旧大馬越分団車庫跡地に仮置きをお願いしたい。

最後に旧大馬越小学校の利活用については、視察等の問い合わせが複数あるが、現時点では、具体的な事業計画の提案がなされていない状況である。具体的な事業計画の提案があれば、内容等を精査し、まずは、地区コミュニティ協議会に説明させていただきたい。また、中庭部分にある鉄骨造の校舎については、今年度、解体設計を実施し、来年度以降の解体で計画している。

議題4 浦三文字から矢立農村公園せせらぎの里までの幹線道路の整備について【黒木地区】

浦三文字から矢立農村公園せせらぎの里までの幹線道路の整備についての御質問である。県道堂山宮之城線の浦三文字から公園入口までの幅員が狭い箇所もあり、片側駐車で離合や農作業などに支障がでている。道路の拡幅に合わせて、落石防止工事と舗装路面の改善を県へ整備していただけるよう要請をお願いしたい。

県道堂山宮之城線の浦三文字から矢立農村公園入口までの区間については、これまで市から県に対して道路整備の要望を行ってきており、県において舗装の補修や離合場所の整備が実施されている。現在の県道整備の状況は、落石防止対策が4工区計画されており、現地の調査測量を終了し、用地交渉を進めているとのことであるが、相続の手続きや保安林解除などに時間を要している状況である。今年度も引き続きこれらの手続きを進め、用地を確保できたところから一部工事着手したい意向である。なお、道路の拡幅や舗装改修については、事業中の箇所及び要望済箇所などから優先度を見極めつつ検討したいとのことである。

市としては、計画区間の着実な工事進捗と更なる安全向上に向けた整備推進について改めて県に要望してまいりたい。

また、県道から公園入口までの市道である市道矢立1号線、市道矢立3号線は、道路幅員約4mで、道路の両側にU型側溝及びL型側溝が設置されている。U型側溝は開渠となっており、市道沿線の土地への乗入口10箇所については3～5mの区間で蓋板を設置している。

同路線の拡幅については路線延長が長く、周辺の土地の利用状況や用地取得等の課題もあり、早期の実現は難しいため、乗入口利用者の同意を得ながら、既設蓋板を利用し、蓋板の設置区間を延伸することで、部分的な離合箇所として活用していただきたい。

また、公園利用者に対する経路案内などについても、公園管理者および指定管理者と協議しながら、交通の円滑化を図ってまいりたい。

【意見：黒木地区】

これからも早急に整備がなされるよう県への要請をお願いしたい。

議題5 市道枯木野・原口線を通学する児童の安全対策について【轟地区】

市道枯木野・原口線を通学する児童の安全対策についての御質問である。

市道枯木野・原口線は、全線を通して道幅が狭く、カーブが多く見通しも悪い区間である。今年度から轟運動広場の一角は祁答院小学校のスクールバス停留所になり、ここまで児童が歩いて集まってくる。また、中学生の自転車通学路でもある。この付近を通行する車へ、通学児童がいることを知らせる道路標識・標示や看板等の設置を検討していただきたいという意見があった。

市道枯木野・原口線は、さつま町及び始良市へ向かう路線となっており、特に朝・夕の通勤時間帯は交通量が多い状況である。今後、轟運動広場周辺の見通しが悪い区間を中心に、地域のご意向等を踏まえながら、「スピード落とせ」や「学童注意」など注意喚起の路面標示による対応を検討してまいりたい。

【意見：轟地区】

現在、事故がないように地区コミュニティ協議会で仮の標識を設置している。市でしっかりとした標識をお願いしたい。

4 フリートーク

(1) 地区振興計画について

特になし。

(2) 市政の動向について
特になし。

(3) その他（地域が抱える課題等について）

【意見：蘭牟田地区】

先月の豪雨によって、蘭牟田池の舟見岳の山腹が崩落し、蘭牟田池を周回する市道蘭牟田池一周線と入来町を結ぶ市道蘭牟田池線が被災した。復旧までにどの程度期間が掛かるのか教えていただきたい。

未来政策部次長

被災した市道は、公共土木施設災害復旧事業として国へ申請を行い、崩落土砂などを除去する工事を先行して実施することとし、道路の被災状況などを確認しながら工法を検討する。

また、山林については保安林であるため、治山事業による復旧工事ができないか、市道の公共土木災害復旧事業と併せて県と協議を進めている。関係機関との連携・協議を行いながら一刻も早い復旧に努めていきたい。現時点で明確な再開時期をお示しできないことをご理解いただきたい。

未来政策部長

現在、県などと協議中であるため、分かり次第報告に伺いたい。

【意見：大馬越地区】

これから益々高齢化社会が進み、各自治会でも若者が減少し、市道などの草払い作業ができなくなってしまうことが懸念される。道路維持作業班の増員により作業が適時にできないか、また業務委託という方法もあるがいかがか。

未来政策部次長

各地区の状況を見極めながら、現状の道路維持補修班で対応を図りたい。

【意見：大馬越地区】

市が開催する行事・イベントなどは、ほとんどが川内地域のSSプラザせんだい、国際交流センター、サンアリーナせんだいなどで開催されている。東部区域（旧4町）から川内地域で開催されているイベントなどへの参加状況を調査したことはあるか。また、このようなイベントなどに参加する際に、バスでの送迎ができないのか伺う。

未来政策部次長

これまで、どの地域からどれくらいの方々の参加があったかの調査については実施していない。また、移動手段についても自家用車やバスなどの公共交通機関を利用した自主移動をお願いしているところである。今後においてもこれまでと同様に自主移動による参加をお願いしたい。

【意見：朝陽地区】

現在、地域では、土地改良区の賦課金を回収しようとしても地主が見つからない、または土地はいらない、使わないという地主が増えている。そのような状況で、生存者への相続登記の義務化がなされ、4月から施行されている。しかし、国、県、市に全く動きがない。農地中間管理機構の説明もたった1回、1時間あっただけである。このように、国の制度や法律ではあるが、県・市町村との連携が図れているのか気になる。法律が決まり、罰金10万円などの情報を知るのはテレビか新聞によるものである。

要望としては、生存者への相続登記の方法の研修会を開催してほしい。また、研修会を開催してもできなかった人には支援をしてほしい。そして、相続税が高いため、国が一括面倒を見るようにしてほしい。

以前、中山間に関する相続登記を土地改良区で手続きしたことがあるが、土地改良区で事務作業をし、農家や地域の負担はなく、同意書だけ済んだ。法律を決めながらなぜ、そこまで支援が行き届いていないのか。このままでは、地域振興や防災対策も図れない。公共事業も進まない。行政や地域と一緒に進めることによって、企業誘致、各種整備事業、地域振興が上手く運ぶのではないのか。それぞれの機関で徹底してやるべきである。

未来政策部長

今の問題は、山の問題だけではなく、空き家の問題など、全ての問題に通じると思う。制度の告知については、市役所の各部局でどの程度進んでいるのか把握できていないため、直ちに調べ、積極的な広報のあり方についても市役所内でも検討する。また、その研修会の話については、国などとも協議をしなければならないため、何らかの方向で連絡をさせていただきたい。

市長

本年度実施する全市的な空き家調査について、各自治会、各コミュニティ協議会のご協力をお願いする。また、その後の空き家の処理・利活用を検討するときは、市役所だけではどうしても把握しきれない難しい部分があるので、地元の方からの情報提供、所有者への説明・説得について、是非、地元の方のお力をお借りしたい。これは調査が終わった次の段階であることをご理解いただきたい。

【追加意見：朝陽地区】

以前、コミュニティ協議会でも空き家調査を実施した。市にも空き家について5、6年前から相談してきたことが実現しそうで嬉しく思う。空き家対策も、先ほどの生存登記の件も併せて国県市が一体となって、進めていければと思う。

【意見：上手地区】

上手小学校が閉校に伴い、校長・教頭住宅が空き家となっている。市民の方から貸してほしいという要望もあるため、今後、貸付や申し込みの募集など、どのようにされるのかを教えていただきたい。

また、大馬越地区で清掃作業の業務委託を受けているように、上手地区も同様に清掃業務の委託を受けている。5月に実施したところ、約90名のボランティアの方が参加していただけた。清掃によって発生した草木などトラック8台分をプール跡

地付近に置いている。しかし、以前から置いてある分も溜まっておりため、置く場所がない状況である。先ほどの大馬越における質疑応答で、置いておけば処理してくださるような内容であった。今後のこともあるため、対応策を教えてください。

未来政策部次長

1 点目の校長・教頭住宅の件は、教職員住宅のままでは一般の方が入居することは難しい。これは市役所内部の手続きではあるが、市営住宅、一般住宅への所管替えが必要となる。閉校した後の教職員住宅は、まず、市役所内で利活用する部署がないか調査を行う。その際に、市営住宅、一般住宅という話が挙げればその方向で調整を進める。教職員住宅でなくなった場合、所管が別の課に移るため、購入の希望などがあれば公売の手続きが始まるという流れである。つまり、現状のままでは市営住宅として入居していただくのは難しいため、今後の手続き次第である。

2 点目の作業後の草の処理は、上手小学校においては別の処分先がないため、これまで通りの場所に置いていただきたい。その後の処理は、教育委員会と相談し、ご回答させていただく。

未来政策部長

1 点目については、閉校後 3 カ月経過しているので、市役所内の手続きについてはできる限りスムーズに進めていきたい。今の地元の方々のニーズやお声もお聞かせください。

【追加意見：上手地区】

小学校の樹木が大きくなり、枯れている部分もある。地区コミュニティ協議会で伐採していただきたいものをピックアップしている。教育委員会の方々にも見ていただき、予算の関係もあると思うが、危険箇所など最低限必要な部分を伐採していただきたい。

【意見：副田地区】

先週、副田地区コミュニティ協議会は、研修視察を行った。その時に、鹿児島県の黎明館の常設展示場に立ち寄り、そこで非常に立派な志布志城の山城の模型を見た。同じような模型があれば、山に登らなくても、清色城を見ることができ、非常に良いのではないかと思います。

また、増田邸に設置してあるテレビ（モニター）で 3D 化したものを放映できればより良くなるのではないかと考えている。入来麓の清色城が国史跡指定 20 周年を迎えることから、これらのことに取り組みれば入来の町おこしに繋がるのではないかと思います。

未来政策部長

入来麓では、さまざまな動きがある。模型、ジオラマ、DX といったキーワードがあったが、そういったものと連動しながら、どのような形で進めていくのかを関係部局で方向性を議論し、地元とも意見交換をさせていただきたい。